

ナースインホームひまわり 門脇 巨輝

功 績	障がいを持ちながらも、ご利用者ケアに積極的に取り組み、1日1日の小さな体験を通して日々成長を続ける姿が他の職員には前向きな刺激となり、ひまわりの障害者雇用のモデルケースとして活躍、今後の雇用促進へも貢献した功績。
推 薦 者	ナースインホームひまわり 山口博子
推 薦 理 由	プリセプターとしてサポートしながら関わりました。本人のリカバリー力からエンパワメントを引き出しました。働くことの楽しさややりがいを見出すことができたことは、私自身、様々な人に支えられているという実感を感じられ他のスタッフにも刺激になっています。事業所全体でも試練や困難があった際は前向きにチャレンジしていきたいと考える機会を得られました。今回のケースはひまわりの障害者雇用普及のモデルケースとなり、新たな応募にもつながっており現在、2名の実習調整に入っています。新たな実績にも繋がっていることから理事長賞に値すると思います。

内 容

門脇は療育手帳を保持しております。ひまわり入職前の就労先では長続きしませんでした。「障害者トライアル雇用」として昨年2月にナースインホームひまわりに短時間勤務で入職、就労に不安はあるも休まず真面目に勤務。その仕事ぶりから12月1日より勤務時間を増加し正式に障害者雇用カウントでの勤務となります。仕事の中からやりがいを見出し、現場で活躍。今ではひまわりの障害者雇用のモデルケースと成っており、今後の雇用普及の一役を担っている存在です。

もともと母子家庭という境遇から母親の金銭的な苦勞を少しでも助けたいという想いで、水産加工・自動販売機清掃・厨房補助等にチャレンジするも長期的雇用には繋がらず体調不良で退職が続いておりました。縁があり就労移行支援の実習でナースインホームひまわりでの介護業務を体験したことから、介護職員初任者研修資格を取得。更には入職希望をし今年の2月に正式に入職となりました。

当初はご利用者の名前を覚えることやトイレ介助、食事介助もうまくできず、ご利用者から拒否されたり、うまくケアができなかつたりしたことから、一緒に働くスタッフからは、「明日・・・休むかもしれない」という、不安がありました。しかし現実には休む事は無く、失敗を糧にしながら次のステップを進む姿がありました。その真面目な勤務態度から周囲のスタッフも信頼し、さらには1つ1つのケアの丁寧さやご利用者との自然なコミュニケーションを図ることができていることに気づき、仕事を任せられる一員として認識するようになりました。

本人はご利用者に名前を覚えてもらい、ナースインホームひまわりでのご利用者とはじっくり向き合いコミュニケーションがとれる雰囲気が”働いていて楽しいしやりがいがある”という発言を聞かれるまでに成長しております。連携先の相談員からも評判が良くお褒めいただく事もありました。仕事にやりがいを持ち勤務する姿は他の職員へも刺激になります。勤務時間の増加等、支援者される側からする側に成長したことは今後のひまわりの雇用普及の一役になっております。